

SRC 自主調査の調査結果について

2023 第三回在留外国人総合調査 「在留外国人の医療・健康・福祉について」

趣旨

- わが国では、在留外国人の受け入れに関して、出入国管理法が2018年12月に改正され、2019年4月から施行されています。この改正法は、在留資格「特定技能1号」「特定技能2号」の創設等を主とするもので、これにより多くの外国人の方と一緒に居住し、働く環境が整備されていくことになりました。さらに、2024年6月の改正では新たな在留資格として「育成就労」が創設されることになりました。一方で、こうした外国人を受け入れる「受入準備」や「人権意識」「多文化共生意識」等、課題を抱えています。また、外国人側も「日本の規範意識」「教育、言語、雇用、医療・保健・福祉、災害」等の知識も不足しているのが現状です。
- わが社では、これまで多くの自治体での「健康・介護・福祉・共生・観光・防災・教育」等の計画策定に携わっています。また、SDGsの理念の元、持続可能な社会を目指して、取り組む事業にもこれらの視点を含めています。
- こうした現状の中で、今後、生活を共にしていく「在留外国人」を対象とした総合的な調査を行うこととし、2020年3月「第一回 在留外国人総合調査」、時系列調査として2022年2月「第二回 在留外国人総合調査」、2023年5月「第三回 在留外国人総合調査」を実施いたしました。
- 今回は「在留外国人総合調査」の内、「在留外国人の医療・健康・福祉について」を公表いたします

実施体制

- 調査主体 株式会社サーベイリサーチセンター
SRC情報総研

調査実施概要

地域調査	全国 ただし、居住地は登録モニターの居住地に準じた。
調査方法	インターネット調査(インターネットリサーチモニターに対するクローズド調査)
調査対象	20歳以上男女モニター ※モニターはリンクオブアジアへの登録者105カ国 約15,000人のパネルを活用。 国別対象の設定は、2022年末法務省「国籍・地域別在留外国人数の推移」の構成比を参照し設定した。
調査項目	属性項目を含めて70問
有効回答	1042サンプル
調査内容	基本属性／右図参照
調査期間	2023年第三回調査 2023年(令和5年)5月16日(火) 配信開始～5月29日(月) 調査終了 参考:2022年第二回調査 2022年(令和4年)2月2日(水)配信開始～2月22日(火) 調査終了 参考:2020年第一回調査 2020年(令和2年)3月27日(金)配信開始～4月17日(金) 調査終了

<設問の課題分類項目>

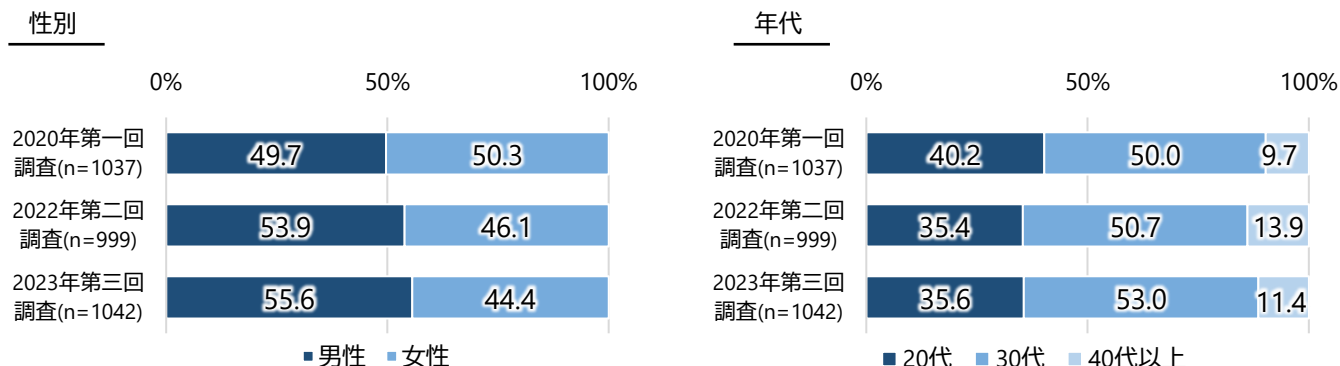
主なテーマ	内容	SDGs
収入・貧困	・ 外国人の生活感と国内での境遇	1 貧困をなくそう
保健・福祉	・ 外国人の保険(健)と健康と国内の社会システムへの適応 ・ 外国人の保証と国内の社会システムへの適応 ・ コロナウイルス感染症等の防疫対策	3 持続可能な開発目標
日本語対応教育・いじめ	・ 外国人の教育環境といじめなどの課題及び国内の教育システムへの適応	4 質の高い教育をみんなに
ジェンダー不平等・人権等	・ 外国人を含む共生や人種課題について	5 男女の平等をすすめる 10 人や国の不平等をなくそう
雇用環境・就業	・ 外国人の就業環境や働きがい及び国内の就業システムへの適応	8 持続可能な成長を創出
持続可能な都市	・ 外国人の住(コミュニティ)環境の課題や国内の居住及びコミュニティシステムへの適応 ・ 外国人を含む災害対策の在り方	11 持続可能な都市を創出
平和	・ 外国人との共生や国内の法律システムへの適応	16 平和と公正

※各課題分類毎に順次レポートをリリースいたします。

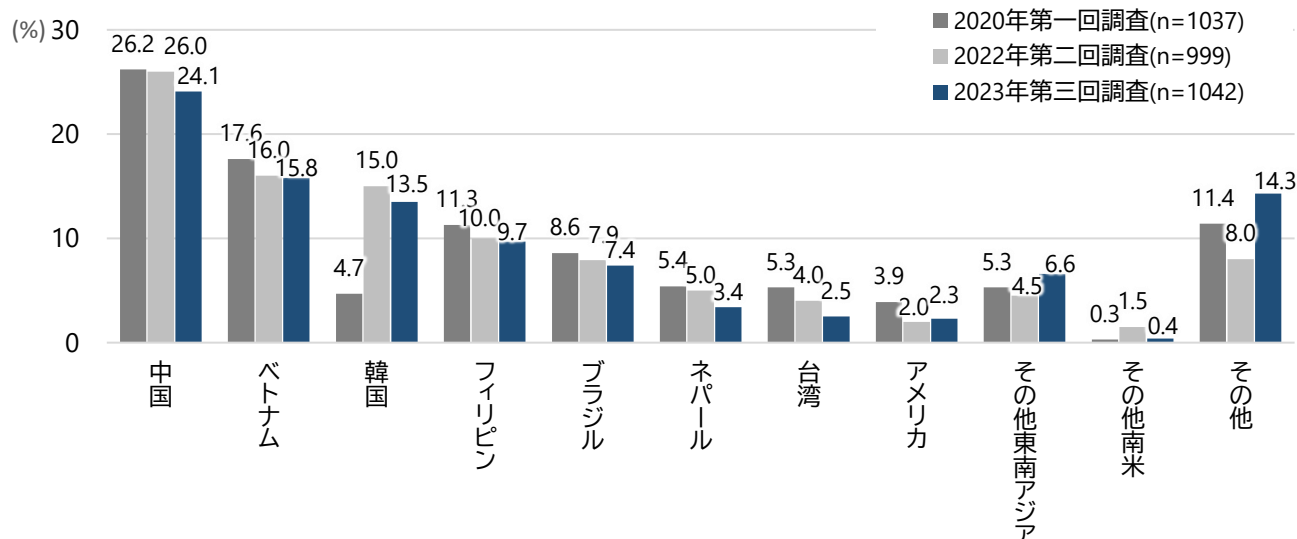
対象者属性

本調査の対象者の属性は下記に示します。

※ 性・年代・在留資格は「モニター」の登録属性に影響を受けているので、各種統計で公表されている割合等には合致しない。



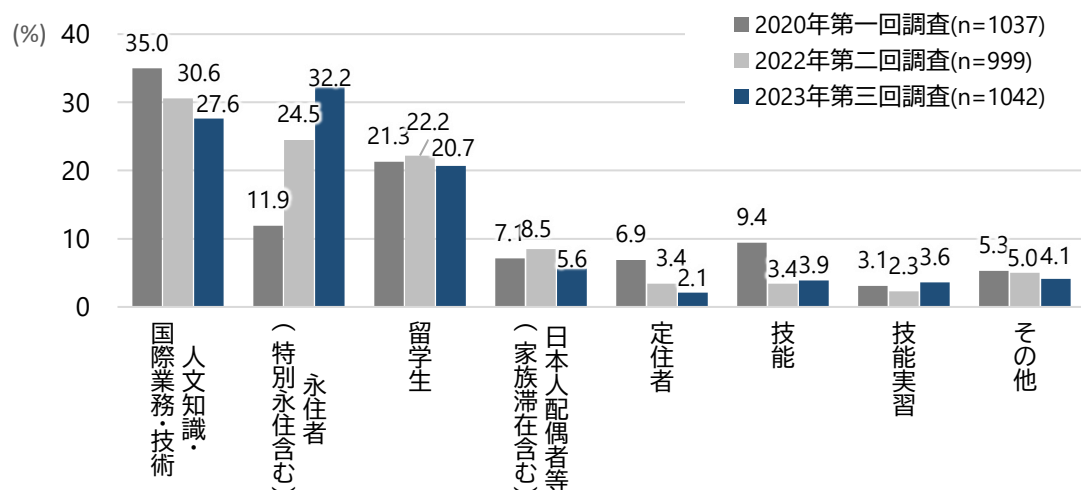
国籍統合



※ 2020年第一回調査の国籍における「韓国」の構成については、モニター提供会社の登録業況による差異

※ 国籍統合名は法務省「国籍・地域別在留外国人数の推移」統計の表記に合わせている。

在留資格統合



調査結果のポイント

1. 健康に対する意識 “今後の不安は「健康」、8割強が定期健診を受診”

- 在留外国人が感じる今後の不安は「自分の健康のこと」が5割、「家族の健康のこと」が5割弱、「生活費など経済的なこと」が4割強、「病気などのとき、面倒をみてくれる人がいないこと」が3割弱と続いている。
- 健康づくりに対する意識として健康診断の受診状況をみると、在留外国人の8割強は会社や個人でなんらかの定期健診を受けている。健診未受診層は20代や3年以内居住者、在留資格では留学生や日本人配偶者や技能実習等でそれぞれ2割から4割弱と高いことから、健診の受診勧奨においてはこれらの層を意識して行うことが重要であると考えられる。

2. 医療の利用 “病気・けがには7割強が通院で対処、 通院時の課題は医療従事者との意思疎通と、医療現場で感じる差別や偏見”

- 病気やけがの際、7割強の人は通院の経験があり、通院経験のうち4割弱は「かかりつけ医(いつも行く病院)」を持っている。ただし、通院する人の割合は、在留資格別に差が見られ、「技能」は2割以下と低く、服薬で対処する人の割合が7割以上と高い。
- 通院時に経験した不都合は、「自分の症状がうまく伝えられなかった」が3割強、「医師や看護師がわかりやすい言葉を使わない」が2割強だった。また「医療機関では外国人は嫌がられる」も2割強となっており、過去2回の調査結果を大きく上回っている。特に永住者や中国居住者、フィリピン居住者等が嫌がられると感じている。
- 医療従事者によるわかりやすい説明や、多言語対応、異文化理解の促進が、在留外国人が安心して利用できる環境づくりのための課題と考えられる。

3. 保健・医療・福祉制度の認知状況 “国保健診や介護保険制度については5割程度が認知”

- 保健・医療に関する日本の主なルール(6項目)についての認知度は、『国民健康保険加入者の健診』が5割弱と最も高く、以下、『子どもの定期健診』『子どもの予防接種』『母子健康手帳』『高額療養費』がそれぞれ4割台で続いている。
- 過去2回の調査結果と比較すると『子どもの定期健診』の認知度が大きく向上している。
- 介護・高齢者福祉制度に関する認知状況を把握するため、介護保険制度と地域包括支援センターの認知度をたずねたところ、介護保険制度については、5割が認知しているが、高齢者等の身近な相談窓口である地域包括センターの認知度は依然として低く、4.1%に留まった。
- 地域包括支援センターと外国人コミュニティとの連携を強化する、外国人向けセミナーや説明会の実施などの施策により、認知度と利用促進が期待できる。

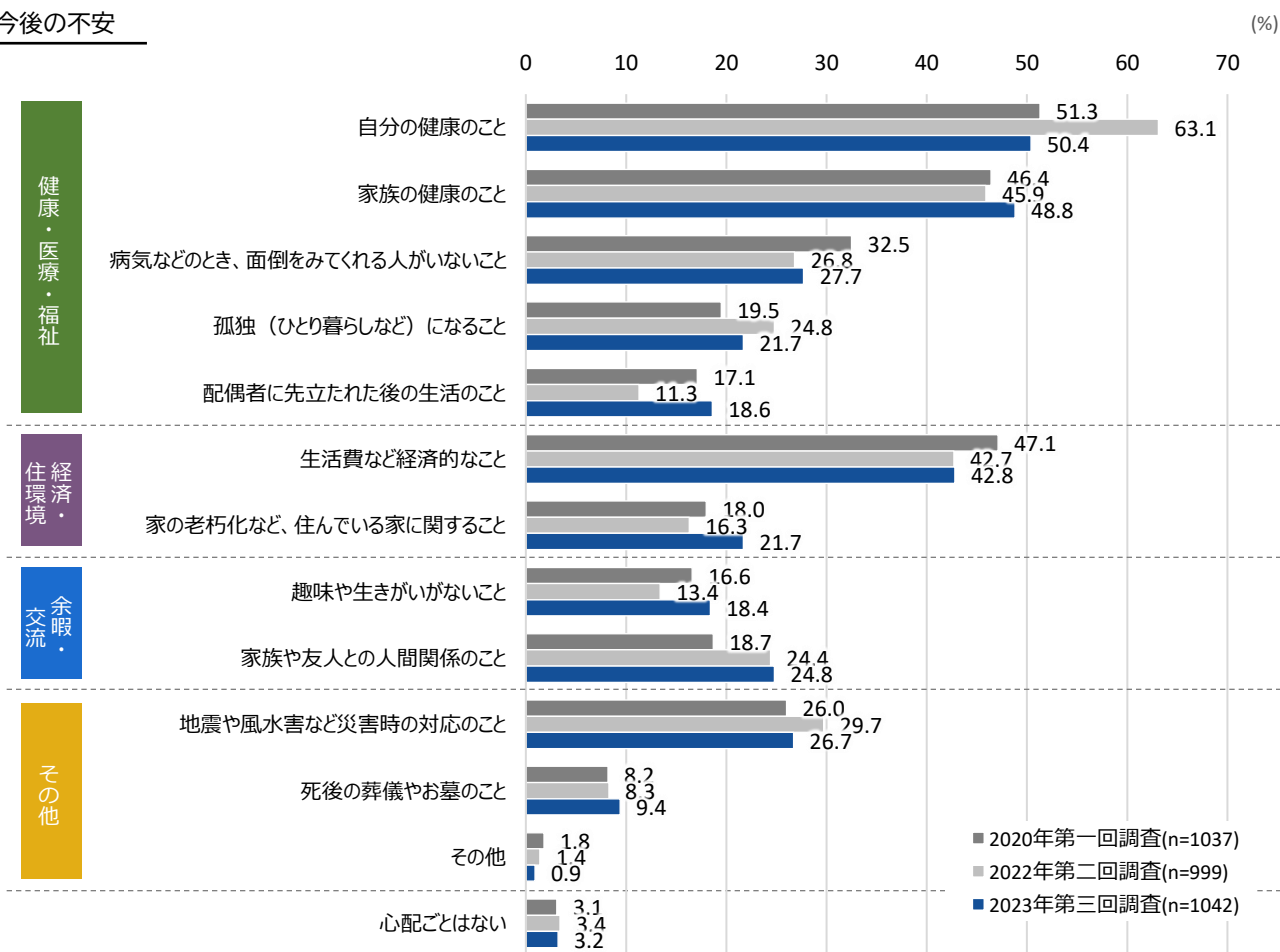
今後の不安

1. 今後の不安(経年比較)

- 今後の不安は、「自分の健康のこと」が50.4%と最も高く、以下、「家族の健康のこと」が48.8%、「生活費など経済的なこと」が42.8%、「病気などのとき、面倒をみてくれる人がいないこと」が27.7%と続いている。
- 過去2回の調査結果と比較すると、「家族の健康のこと」「配偶者に先立たれた後の生活のこと」「家の老朽化など、住んでいる家に関すること」「趣味や生きがいがいないこと」「家族や友人との人間関係のこと」「死後の葬儀やお墓のこと」の割合が高まっている。

Q47.あなたは、今後どのようなことが不安ですか。(あてはまるものすべて)

今後の不安



今後の不安

2.今後の不安(属性別傾向)

- 今後の不安について、「年代」「性・年代」「居住期間」別に上位3項目を整理した。
- 今後の不安は「男性40代以上」と「女性20代」を除いて、「自分の健康のこと」と「家族の健康のこと」が2位以内に入っている。「男性40代以上」と「女性20代」の第2位は「生活費など経済的なこと」となっている。

性・年代別 上位3項目(2023年第三回調査)

分野区分：健康・医療・福祉 経済・住環境 余暇・交流 その他

		n	第1位	第2位	第3位
全体		1042	自分の健康のこと 50.4%	家族の健康のこと 48.8%	生活費など経済的なこと 42.8%
年代	20代	371	自分の健康のこと 53.1%	家族の健康のこと 42.6%	生活費など経済的なこと 41.0%
	30代	552	家族の健康のこと 50.9%	自分の健康のこと 46.2%	生活費など経済的なこと 42.2%
	40代以上	119	自分の健康のこと 61.3%	家族の健康のこと 58.0%	生活費など経済的なこと 51.3%
性・年代	男性20代	201	自分の健康のこと 57.2%	家族の健康のこと 49.8%	生活費など経済的なこと 38.8%
	男性30代	323	家族の健康のこと 48.9%	自分の健康のこと 43.7%	生活費など経済的なこと 38.4%
	男性40代以上	55	自分の健康のこと 60.0%	生活費など経済的なこと 54.5%	家族の健康のこと 52.7%
	女性20代	170	自分の健康のこと 48.2%	生活費など経済的なこと 43.5%	地震や風水害など災害時の対応のこと 36.5%
	女性30代	229	家族の健康のこと 53.7%	自分の健康のこと 49.8%	生活費など経済的なこと 47.6%
	女性40代以上	64	自分の健康のこと 62.5%、家族の健康のこと 62.5%		生活費など経済的なこと 48.4%
居住期間	3年以内	210	自分の健康のこと 58.1%	家族の健康のこと 44.3%	生活費など経済的なこと 40.0%
	4～9年	629	家族の健康のこと 49.0%	自分の健康のこと 45.6%	生活費など経済的なこと 42.1%
	10年以上	203	自分の健康のこと 57.1%	家族の健康のこと 52.7%	生活費など経済的なこと 47.8%

性・年代・居住期間別 全項目(2023年第三回調査)

単位：%

		n	自分の健康のこと	家族の健康のこと	病気などのとき、面倒をみられる人がいないこと	孤独（ひとり暮らしなど）になること	配偶者に先立たれた後の生活のこと	生活費など経済的なこと	家の老朽化など、住んでいる家に関すること	趣味や生きがいがないこと	家族や友人との人間関係のこと	地震や風水害など災害時の対応のこと	死後の葬儀やお墓のこと	その他	心配ごとはない
全体		1042	50.4	48.8	27.7	21.7	18.6	42.8	21.7	18.4	24.8	26.7	9.4	0.9	3.2
年代	20代	371	53.1	42.6	21.6	17.0	10.2	41.0	22.1	21.8	28.8	29.9	6.2	-	1.9
	30代	552	46.2	50.9	31.3	25.0	21.4	42.2	21.6	18.3	25.0	23.4	8.7	1.1	3.6
	40代以上	119	61.3	58.0	30.3	21.0	31.9	51.3	21.0	8.4	10.9	31.9	22.7	2.5	5.0
性・年代	男性20代	201	57.2	49.8	17.4	11.9	10.4	38.8	20.4	25.9	30.3	24.4	5.0	-	2.0
	男性30代	323	43.7	48.9	29.7	27.9	23.2	38.4	27.2	22.6	25.4	16.7	6.8	1.2	3.1
	男性40代以上	55	60.0	52.7	14.5	18.2	25.5	54.5	23.6	10.9	14.5	27.3	21.8	1.8	7.3
	女性20代	170	48.2	34.1	26.5	22.9	10.0	43.5	24.1	17.1	27.1	36.5	7.6	-	1.8
	女性30代	229	49.8	53.7	33.6	21.0	18.8	47.6	13.5	12.2	24.5	32.8	11.4	0.9	4.4
	女性40代以上	64	62.5	62.5	43.8	23.4	37.5	48.4	18.8	6.3	7.8	35.9	23.4	3.1	3.1
居住期間	3年以内	210	58.1	44.3	20.5	12.9	7.1	40.0	21.0	24.8	29.5	25.2	7.6	0.5	1.0
	4～9年	629	45.6	49.0	29.3	24.8	20.5	42.1	23.8	18.9	25.4	25.1	6.5	0.3	3.3
	10年以上	203	57.1	52.7	30.5	21.2	24.6	47.8	15.8	10.3	17.7	33.0	20.2	3.0	4.9

1位2位3位

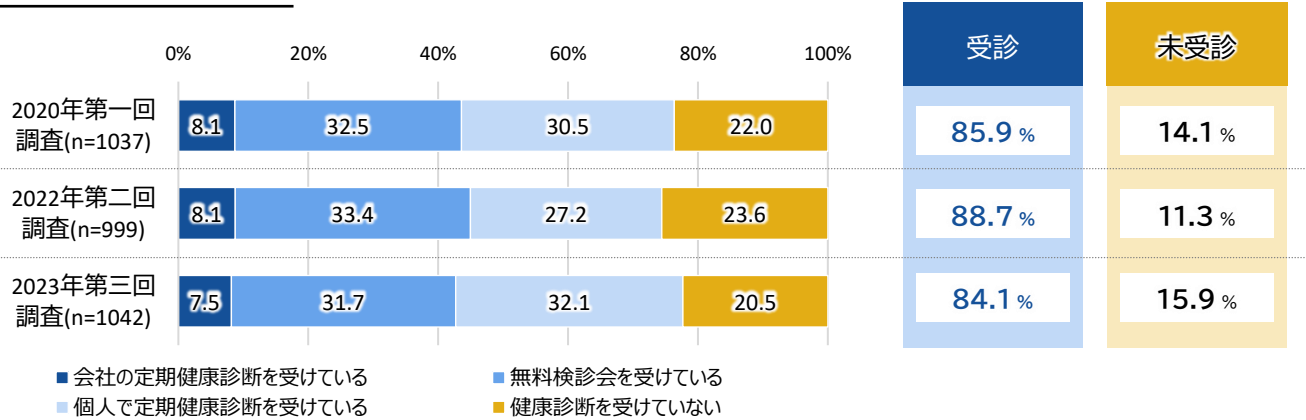
健康診断の受診

1.健康診断の受診状況

- 定期健康診断の受診率(何らかの定期健診を受けている人の割合)は84.1%であり、内訳では「個人で定期健康診断を受けている」が32.1%と最も高く、以下、「無料検診会を受けている」が31.7%、「会社の定期健康診断を受けている」が7.5%と続いている。
- 過去2回の調査と比較すると、受診率は僅かながら低下している。
- 年代と居住期間別にみると「20代」と「3年以内」の未受診率が他と比べて高い。
- 在留資格別にみると「留学生」「技能実習」「日本人配偶者等」の未受診率が他と比べて高い。
- 国籍別にみると「台湾」の未受診率が他と比べて高い。

Q44.定期健康診断を受けていますか。(ひとつだけ)

定期健康診断の受診状況



年代別、居住期間別、在留資格別(2023年第三回調査)

単位: %

		n	会社の定期健康診断を受けている	無料検診会を受けている	個人で定期健康診断を受けている	健康診断を受けていない	受診	未受診
全体		1042	53.3	21.2	9.6	15.9	84.1	15.9
年代	20代	371	38.3	24.0	11.9	25.9	74.2	25.9
	30代	552	64.1	18.8	6.9	10.1	89.8	10.1
	40代以上	119	49.6	23.5	15.1	11.8	88.2	11.8
居住期間	3年以内	210	25.7	26.7	15.2	32.4	67.6	32.4
	4～9年	629	59.8	21.6	7.3	11.3	88.7	11.3
	10年以上	203	61.6	14.3	10.8	13.3	86.7	13.3
在留資格	永住者(特別永住含む)	336	68.2	19.6	6.0	6.3	93.8	6.3
	留学生	216	14.8	31.5	18.1	35.6	64.4	35.6
	技能実習	38	26.3	39.5	7.9	26.3	73.7	26.3
	定住者	22	45.5	22.7	22.7	9.1	90.9	9.1
	日本人配偶者等(家族滞在含む)	58	24.1	22.4	15.5	37.9	62.0	37.9
	人文知識・国際業務・技術	288	68.1	17.0	6.9	8.0	92.0	8.0
	技能	41	90.2	2.4	2.4	4.9	95.0	4.9
国籍	その他	43	62.8	9.3	7.0	20.9	79.1	20.9
	中国	251	37.5	24.7	16.3	21.5	78.5	21.5
	韓国	141	65.2	16.3	5.7	12.8	87.2	12.8
	台湾	26	42.3	7.7	3.8	46.2	53.8	46.2
	フィリピン	101	65.3	7.9	10.9	15.8	84.1	15.8
	ベトナム	165	49.7	31.5	5.5	13.3	86.7	13.3
	ネパール	35	57.1	37.1	5.7	0.0	99.9	0.0
	その他東南アジア	69	55.1	24.6	2.9	17.4	82.6	17.4
	ブラジル	77	76.6	6.5	6.5	10.4	89.6	10.4
	その他南米 ※1	4	50.0	25.0	0.0	25.0	75.0	25.0
	アメリカ	24	88.3	8.3	0.0	8.3	91.6	8.3
	その他	149	47.7	24.2	14.1	14.1	86.0	14.1

※1: サンプルサイズが20以下のため参考値

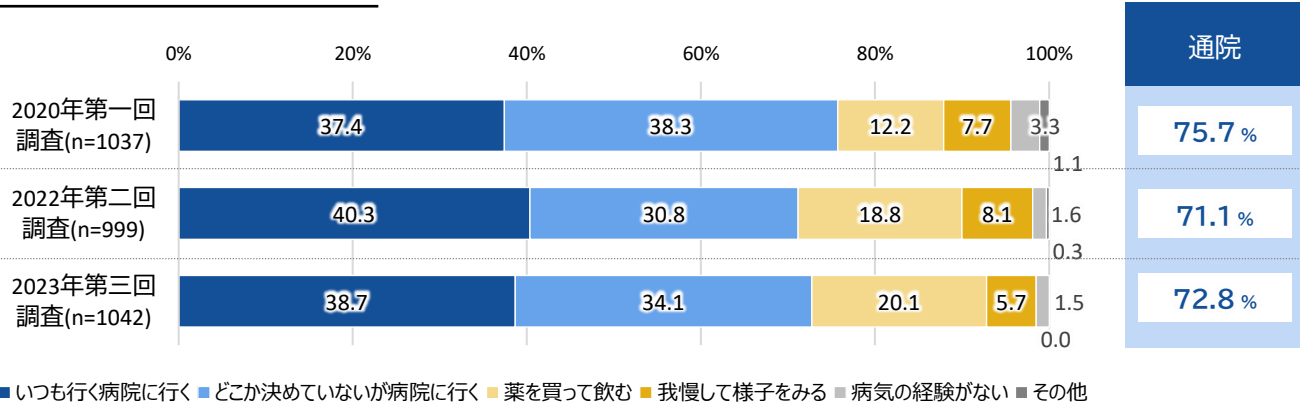
医療の利用

1. 病気やけがへの対処

- 病気やけがをしたときの対処では、「いつも行く病院に行く」が38.7%と最も高く、以下、「どこか決めていないが病院に行く」が34.1%、「薬を買って飲む」が20.1%、「我慢して様子を見る」が5.7%と続いている。
- 過去2回の調査結果と比較すると、「薬を買って飲む」の回答割合が高くなっている。
- 在留資格別にみると「技能」の通院率が他と比べて低く、「薬を買って飲む」が75%以上となっている。
- 居住期間別にみると居住期間が長いほど通院率が高まっている。
- 国籍別にみると「アメリカ」と「ネパール」の通院率は9割以上と他に比べて高いが「台湾」は5割以下と低い。

Q42. 病気やけがをしたとき、どうしますか。(ひとつだけ)

病気やけがをしたときの対処



年代別、居住期間別、在留資格別、国籍別(2023年第三回調査)

		単位: %							
		n	いつも行く病院に行く	どこか決めていないが病院に行く	薬を買って飲む	我慢して様子を見る	病気の経験がない	その他	通院
年代	全体	1042	38.7	34.1	20.1	5.7	1.5	0.0	72.8
	20代	371	18.9	35.3	38.0	6.5	1.3	0.0	54.2
	30代	552	50.0	33.3	11.1	4.3	1.3	0.0	83.3
	40代以上	119	47.9	33.6	5.9	9.2	3.4	0.0	81.5
居住期間	3年以内	210	16.7	36.2	41.9	3.3	1.9	0.0	52.9
	4～9年	629	45.2	32.1	16.5	5.1	1.1	0.0	77.3
	10年以上	203	41.4	37.9	8.4	9.9	2.5	0.0	79.3
在留資格	永住者(特別永住含む)	336	63.7	26.5	5.1	4.5	0.3	0.0	90.2
	留学生	216	20.8	36.1	35.6	4.6	2.8	0.0	56.9
	技能実習	38	26.3	39.5	15.8	18.4	0.0	0.0	65.8
	定住者	22	27.3	36.4	27.3	4.5	4.5	0.0	63.7
	日本人配偶者等(家族滞在含む)	58	46.6	43.1	1.7	8.6	0.0	0.0	89.7
	人文知識・国際業務・技術	288	28.1	41.3	22.6	5.2	2.8	0.0	69.4
	技能	41	7.3	12.2	75.6	4.9	0.0	0.0	19.5
国籍	その他	43	39.5	37.2	14.0	9.3	0.0	0.0	76.7
	中国	251	37.8	29.9	27.5	4.0	0.8	0.0	67.7
	韓国	141	27.7	45.4	18.4	5.7	2.8	0.0	73.1
	台湾	26	15.4	30.8	50.0	3.8	0.0	0.0	46.2
	フィリピン	101	45.5	26.7	21.8	5.0	1.0	0.0	72.2
	ベトナム	165	35.2	43.6	17.0	4.2	0.0	0.0	78.8
	ネパール	35	57.1	37.1	2.9	2.9	0.0	0.0	94.2
	その他東南アジア	69	39.1	30.4	17.4	13.0	0.0	0.0	69.5
	ブラジル	77	51.9	23.4	18.2	5.2	1.3	0.0	75.3
	その他南米 ※1	4	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	75.0
	アメリカ	24	79.2	12.5	4.2	4.2	0.0	0.0	91.7
	その他	149	35.6	35.6	14.8	8.7	5.4	0.0	71.2

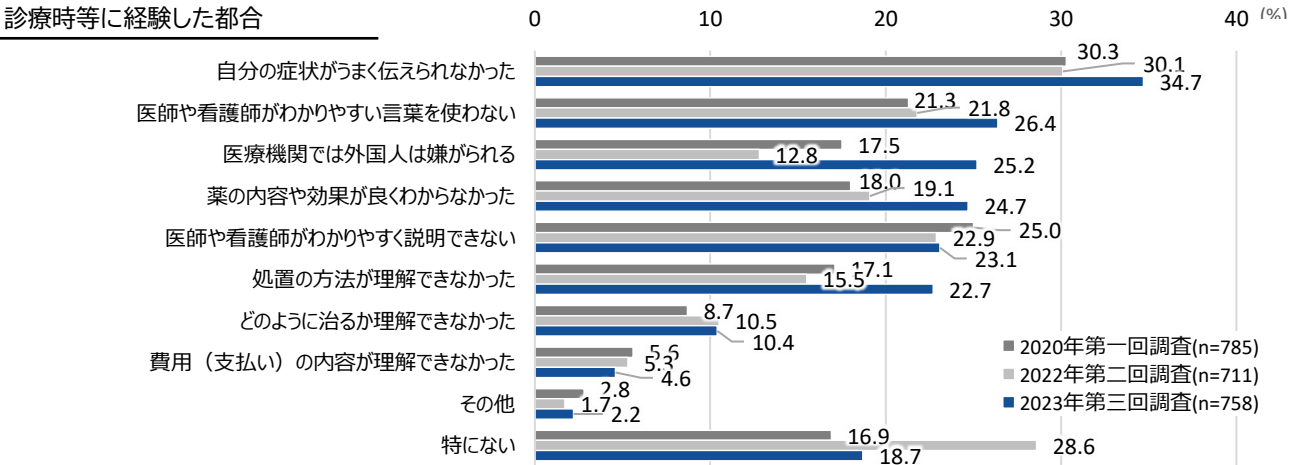
※1: サンプルサイズが20以下のため参考値

医療の利用

2.通院時に経験した不都合

- 通院時に経験した不都合では、「自分の症状がうまく伝えられなかった」が34.7%と最も高く、以下、「医師や看護師がわかりやすい言葉を使わない」が26.4%、「医療機関では外国人は嫌がられる」が25.2%、「薬の内容や効果が良くわからなかった」が24.7%、「医師や看護師がわかりやすく説明できない」が23.1%と続いている。
- 過去2回の調査結果と比較すると、「医師や看護師がわかりやすく説明できない」と「費用(支払い)の内容が理解できなかった」の回答割合は低下しているが、そのほかの項目の回答割合は高まっている。
- 在留資格別にみると「永住者」は5割弱が「外国人は嫌がられる」と感じている。

Q43.これまでに行った診療所や病院の診察等で不都合がありましたか。(あてはまるものすべて)



※Q42で「いつも行く病院に行く」「どこか決めていないが病院に行く」と回答した人ベース

年代別、居住期間別、在留資格別、国籍別(2023年第三回調査)

単位:%

	n	自分の症状がうまく伝えられなかった	医師や看護師がわかりやすい言葉を使わない	医療機関では外国人は嫌がられる	薬の内容や効果が良くわからなかった	医師や看護師がわかりやすく説明できない	処置の方法が理解できなかった	どのように治るか理解できなかった	費用(支払い)の内容が理解できなかった	その他	特にない
全体	758	34.7	26.4	25.2	24.7	23.1	22.7	10.4	4.6	2.2	18.7
年代											
20代	201	28.4	24.4	11.9	24.4	24.4	21.9	13.4	7.0	1.0	11.9
30代	460	39.1	27.8	34.1	28.0	24.1	26.3	9.8	3.0	2.4	15.4
40代以上	97	26.8	23.7	10.3	9.3	15.5	7.2	7.2	7.2	4.1	48.5
居住期間											
3年以内	111	26.1	20.7	10.8	23.4	27.9	19.8	9.9	5.4	1.8	9.9
4~9年	486	37.7	30.7	33.3	29.0	24.5	27.0	10.9	3.7	1.9	12.3
10年以上	161	31.7	17.4	10.6	12.4	15.5	11.8	9.3	6.8	3.7	44.1
在留資格											
永住者(特別永住含む)	303	34.0	34.7	46.2	33.0	24.8	32.7	10.2	3.0	2.3	15.2
留学生	123	33.3	23.6	16.3	23.6	26.8	20.3	13.8	4.1	3.3	9.8
技能実習	25	16.0	12.0	16.0	36.0	20.0	20.0	8.0	-	-	4.0
定住者 ※1	14	32.9	35.7	-	14.3	14.3	14.3	21.4	-	-	28.6
日本人配偶者等(家族滞在含む)	52	26.9	19.2	7.7	9.6	17.3	3.8	5.8	7.7	3.8	48.1
人文知識・国際業務・技術	200	38.5	17.5	10.0	16.0	18.5	17.5	9.5	7.5	2.0	20.5
技能 ※1	8	50.0	37.5	-	37.5	62.5	-	12.5	-	-	12.5
その他	33	42.4	30.3	9.1	21.2	27.3	12.1	9.1	6.1	-	36.4
国籍											
中国	170	40.0	20.0	39.4	28.8	13.5	31.8	10.6	5.3	1.8	17.1
韓国	103	29.1	13.6	9.7	6.8	18.4	9.7	5.8	6.8	1.9	39.8
台湾 ※1	12	41.7	16.7	8.3	8.3	33.3	8.3	8.3	-	-	33.3
フィリピン	73	37.0	38.4	37.0	31.5	31.5	28.8	17.8	5.5	1.4	12.3
ベトナム	130	30.0	30.0	24.6	33.1	16.2	14.6	13.1	2.3	1.5	4.6
ネパール	33	27.3	18.2	27.3	45.5	36.4	39.4	15.2	-	-	-
その他東南アジア	48	52.1	29.2	8.3	27.1	29.2	14.6	6.3	-	2.1	16.7
ブラジル	58	50.0	50.0	32.8	29.3	39.7	34.5	10.3	3.4	-	13.8
その他南米 ※1	3	-	33.3	-	-	33.3	-	-	-	-	66.7
アメリカ	22	31.8	50.0	59.1	45.5	63.6	59.1	-	9.1	-	4.5
その他	106	22.6	20.8	8.5	8.5	19.8	13.2	9.4	6.6	7.5	32.1

1位 2位 3位

※Q42で「いつも行く病院に行く」「どこか決めていないが病院に行く」と回答した人ベース

※1:サンプルサイズが20以下のため参考値

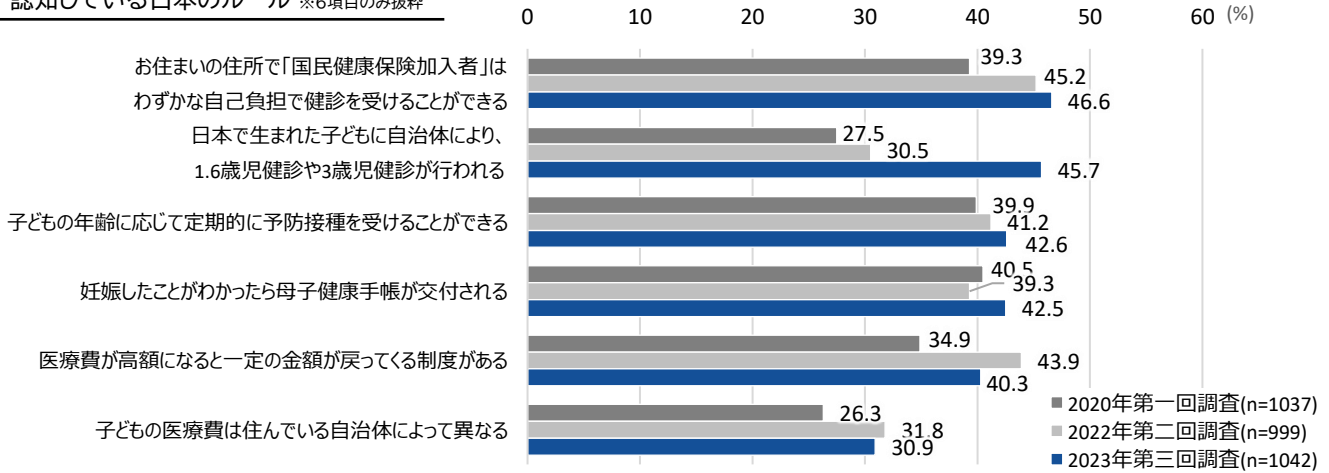
保健・医療に関する日本のルールの認知状況

1.保健・医療に関する日本のルールの認知度

- 保健・医療に関する日本のルール(6項目)の認知度は、『国民健康保険加入者の健診』が46.6%と最も高く、以下、『子どもの定期検診』が45.7%、『子どもの予防接種』が42.6%、『母子健康手帳』が42.5%、『高額療養費』が40.3%と続いている。
- 過去2回の調査結果と比較すると『子どもの定期健診』の認知度が顕著に高まっている。
- 年代別、居住期間別で見ると「40代以上」「10年以上」が他と比べて全般的に認知度が高くなっている。

Q39.日本には様々なルールがありますがあなたがご存知のルールがありますか。(あてはまるものすべて)

認知している日本のルール ※6項目のみ抜粋



年代別、居住期間別、在留資格別、国籍別(2023年第三回調査)

単位: %

	n	お住まいの住所で「国民健康保険加入者」はわずかな自己負担で健診を受けることができる	日本で生まれた子どもに自治体により、1.6歳児健診や3歳児健診が行われる	子どもの年齢に応じて定期的に予防接種を受けることができる	妊娠したことがわかったら母子健康手帳が交付される	医療費が高額になると一定の金額が戻ってくる制度がある	子どもの医療費は住んでいる自治体によって異なる
全体	1042	46.6	45.7	42.6	42.5	40.3	30.9
年代							
20代	371	43.1	41.8	39.6	42.0	29.4	26.1
30代	552	45.8	47.6	40.9	38.2	43.3	30.3
40代以上	119	61.3	48.7	59.7	63.9	60.5	48.7
居住期間							
3年以内	210	44.8	44.8	41.9	41.9	28.6	23.3
4～9年	629	44.7	45.0	36.2	34.7	38.2	26.9
10年以上	203	54.7	48.8	63.1	67.5	59.1	51.2
在留資格							
永住者(特別永住含む)	336	49.1	60.1	46.7	33.3	50.3	37.2
留学生	216	45.8	36.6	36.6	39.4	23.6	21.3
技能実習	38	31.6	34.2	21.1	21.1	13.2	7.9
定住者 ※1	22	45.5	31.8	36.4	59.1	50.0	45.5
日本人配偶者等(家族滞在含む)	58	46.6	51.7	55.2	67.2	53.4	39.7
人文知識・国際業務・技術	288	42.0	35.8	37.8	46.2	37.5	27.4
技能	41	63.4	70.7	65.9	53.7	46.3	36.6
その他	43	60.5	30.2	55.8	72.1	60.5	48.8
国籍							
中国	251	44.6	42.2	41.8	38.6	33.9	31.1
韓国	141	44.7	36.9	46.1	52.5	44.0	34.8
台湾	26	61.5	46.2	61.5	65.4	23.1	26.9
フィリピン	101	51.5	42.6	38.6	31.7	44.6	24.8
ベトナム	165	37.0	55.8	34.5	35.8	38.8	24.2
ネパール	35	60.0	60.0	37.1	22.9	45.7	37.1
その他東南アジア	69	49.3	40.6	49.3	56.5	50.7	37.7
ブラジル	77	51.9	54.5	32.5	39.0	48.1	26.0
その他南米 ※1	4	-	25.0	75.0	50.0	25.0	50.0
アメリカ	24	41.7	41.7	41.7	8.3	25.0	29.2
その他	149	51.7	46.3	51.7	55.7	42.3	36.9

※1: サンプルサイズが20以下のため参考値

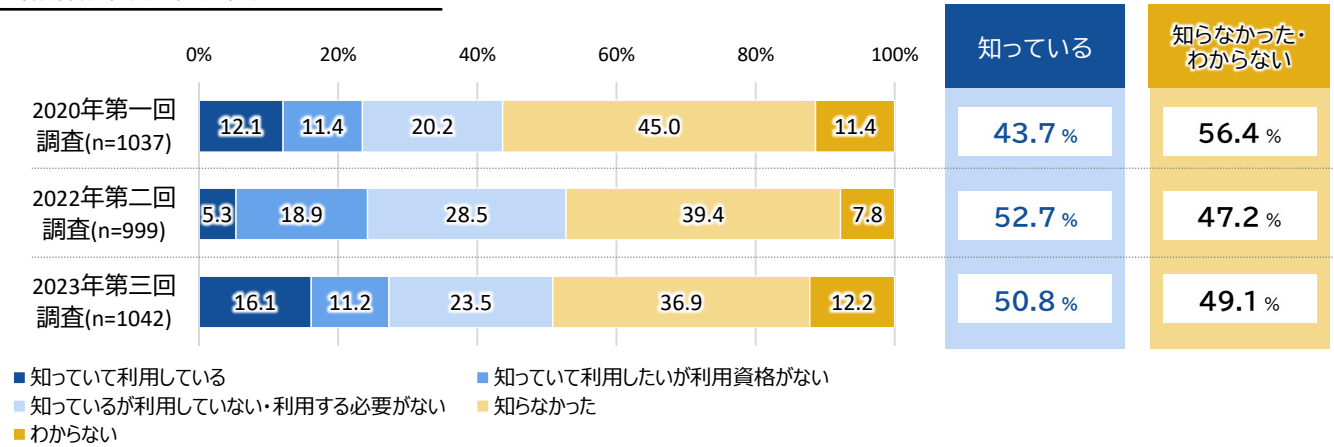
介護・高齢者福祉制度の認知状況

1.介護保険制度の認知度

- 介護保険制度については「知っている」が50.8%、「知らなかった」が49.1%とほぼ半々となっている。
- 過去2回の調査結果と比べると「知っていて利用している」が高くなっている。
- 在留資格別にみると「永住者」の認知度が75.3%と他と比べて高い。
- 国籍別にみると「ネパール」の認知度が80.0%と他と比べて高い。

Q45.あなたは高齢者等のためのサービス制度の「介護保険制度」を知っていますか。また、利用されていますか。(ひとつだけ)

介護保険制度の認知状況



年代別、居住期間別、在留資格別、国籍別(2023年第三回調査)

単位: %

	n	知っていて利用している	知っていて利用したいが利用資格がない	知っているが利用していない・利用する必要がある	知らなかった	わからない	知っている	知らなかった・わからない
全体	1042	16.1	11.2	23.5	36.9	12.2	50.8	49.1
年代								
20代	371	2.7	6.2	30.2	41.0	19.9	39.1	60.9
30代	552	26.1	15.9	18.5	31.7	7.8	60.5	39.5
40代以上	119	11.8	5.0	26.1	48.7	8.4	42.9	57.1
居住期間								
3年以内	210	0.5	4.3	28.6	42.9	23.8	33.4	66.7
4～9年	629	23.7	14.6	20.8	32.4	8.4	59.1	40.8
10年以上	203	8.9	7.9	26.6	44.8	11.8	43.4	56.6
在留資格								
永住者(特別永住含む)	336	41.1	20.5	13.7	20.8	3.9	75.3	24.7
留学生	216	2.8	5.6	31.0	43.1	17.6	39.4	60.7
技能実習	38	0.0	2.6	63.2	26.3	7.9	65.8	34.2
定住者	22	4.5	13.6	9.1	72.7	0.0	27.2	72.7
日本人配偶者等(家族滞在含む)	58	10.3	13.8	13.8	48.3	13.8	37.9	62.1
人文知識・国際業務・技術	288	5.9	8.3	29.5	42.0	14.2	43.7	56.2
技能	41	0.0	0.0	2.4	58.5	39.0	2.4	97.5
その他	43	0.0	0.0	27.9	53.5	18.6	27.9	72.1
国籍								
中国	251	10.4	23.9	22.7	23.5	19.5	57.0	43.0
韓国	141	6.4	7.1	32.6	34.0	19.9	46.1	53.9
台湾	26	7.7	3.8	15.4	42.3	30.8	26.9	73.1
フィリピン	101	20.8	4.0	17.8	49.5	7.9	42.6	57.4
ベトナム	165	19.4	10.9	30.3	28.5	10.9	60.6	39.4
ネパール	35	40.0	14.3	25.7	20.0	0.0	80.0	20.0
その他東南アジア	69	5.8	13.0	18.8	58.0	4.3	37.6	62.3
ブラジル	77	46.8	5.2	9.1	33.8	5.2	61.1	39.0
その他南米 ※1	4	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
アメリカ	24	75.0	0.0	4.2	8.3	12.5	79.2	20.8
その他	149	4.0	4.0	26.8	61.1	4.0	34.8	65.1

※1: サンプルサイズが20以下のため参考値

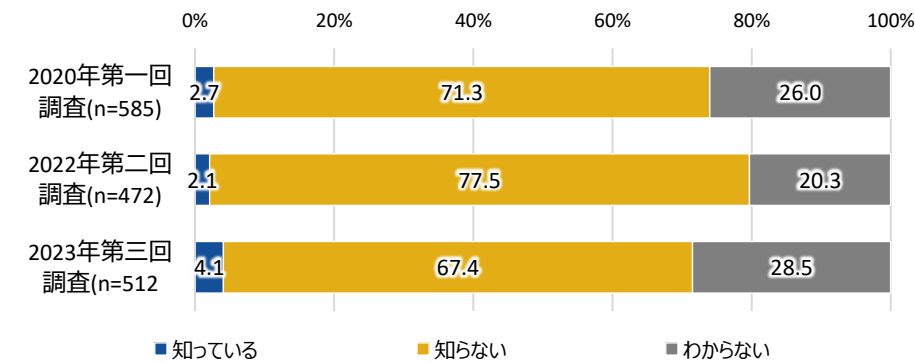
介護・高齢者福祉制度の認知状況

2.地域包括支援センターの認知状況

- 高齢者等の介護保険などの相談ができる「地域包括支援センター」については、過去2回の調査結果と同様に認知度は4.1%と低いが、3回の調査のうち、今回が最も高くなっている。
- 「わからない」28.5%の回答率が高い背景には、情報が提供されていても言語や文化的理解の不足がある可能性も考えられる。

Q46.あなたは高齢者等の介護保険などの相談ができる「地域包括支援センター」を知っていますか。(ひとつだけ)

地域包括支援センターの認知状況



※: Q45で「知らなかった」「わからない」と回答した人ベース

年代別、居住期間別、在留資格別、国籍別(2023年第三回調査)

		単位: %			
		n	知っている	知らない	わからない
全体		512	4.1	67.4	28.5
年代	20代	226	4.4	59.3	36.3
	30代	218	4.1	72.5	23.4
	40代以上	68	2.9	77.9	19.1
居住期間	3年以内	140	4.3	59.3	36.4
	4～9年	257	5.1	68.1	26.8
	10年以上	115	1.7	75.7	22.6
在留資格	永住者(特別永住含む)	83	3.6	74.7	21.7
	留学生	131	2.3	62.6	35.1
	技能実習 ※1	13	15.4	38.5	46.2
	定住者 ※1	16	-	100.0	-
	日本人配偶者等(家族滞在含む)	36	13.9	61.1	25.0
	人文知識・国際業務・技術	162	1.9	69.8	28.4
	技能	40	12.5	57.5	30.0
国籍	その他	31	-	71.0	29.0
	中国	108	2.8	42.6	54.6
	韓国	76	2.6	55.3	42.1
	台湾 ※1	19	-	52.6	47.4
	フィリピン	58	6.9	79.3	13.8
	ベトナム	65	6.2	67.7	26.2
	ネパール ※1	7	-	85.7	14.3
	その他東南アジア	43	11.6	76.7	11.6
	ブラジル	30	-	93.3	6.7
	その他南米 ※1	4	-	100.0	-
	アメリカ ※1	5	-	40.0	60.0
	その他	97	3.1	86.6	10.3

※: Q45で「知らなかった」「わからない」と回答した人ベース

※1: サンプルサイズが20以下のため参考値

株式会社サーベイリサーチセンター 会社概要

会社名	株式会社サーベイリサーチセンター
所在地	東京都荒川区西日暮里2丁目40番10号
設立	1975(昭和50)年2月
資本金	6,000万円
年商	101億円(2024年度)
代表者	代表取締役 藤澤 士朗、長尾 健、石川 俊之
社員数	社員356名、契約スタッフ473名 合計829名(2025年2月1日現在)
事業所	東京(本社)、札幌、盛岡、仙台、静岡、名古屋、大阪、岡山、広島、高松、福岡、熊本、那覇
主要事業	世論調査・行政計画策定支援、都市・交通計画調査、マーケティング・リサーチ
所属団体	公益財団法人 日本世論調査協会 一般社団法人 日本マーケティング・リサーチ協会(JMRA) 日本災害情報学会 一般社団法人 交通工学研究会 他
その他	ISO9001認証取得(2000年6月) プライバシーマーク付与認定(2000年12月) ISO20252認証取得(2010年10月) ISO27001認証取得(2015年11月)※ ※認証区分及び認証範囲: ・MR部及びGMR部が実施するインターネットリサーチサービスの企画及び提供 ・全国ネットワーク部及び沖縄事務所が実施する世論・市場調査サービスの企画及び提供

本件に関するお問合せ先

株式会社サーベイリサーチセンター <https://www.surece.co.jp/>

ご質問や詳細情報のご希望がございましたら、お気軽にお問い合わせください。

お電話によるお問い合わせ

メールフォームによるお問い合わせ



03-5990-9311



メールフォームはこちら >

- 調査結果の引用にあたっては、調査主体名として「株式会社サーベイリサーチセンター」を必ず明記して利用してください
- 調査結果の無断転載・複製を禁じます
- 本紙に記載している情報は、発表日時点のものです